

口永良部島

1 火山活動度レベル

火山活動度レベルは、2 (やや活発な火山活動) でした。

2 概況

火山性地震はやや多い状態が続いており、火山活動はやや活発な状態です。

3 噴煙活動の状況

監視カメラによる観測では新岳・古岳からの噴煙は観測されませんでした。

4 地震・微動活動の状況(図 1 ~ 3)

- ・火山性地震の月回数は 201 回(8 月: 228 回)とやや多い状態が続いています。
- ・火山性地震の震源は 5 個求まり、いずれも新岳火口付近のごく浅い所に分布しています。
- ・火山性微動の月回数は 10 回(8 月: 40 回)と減少し、期間の後半は観測されませんでした。

5 調査観測の結果(図 5 ~ 9)

14 日から 21 日に調査観測を実施しました。

- ・新岳の噴気活動や火口の状況には、大きな変化は見られませんでした。
- ・GPS 繰り返し観測の結果では新岳火口付近の膨張傾向が続いています。
- ・光波測量の結果では、前回の観測(2005 年 4 月)までは出張所-観測点間の距離は縮小の傾向にありました。今回の観測ではわずかに伸びの傾向がみられますが、長期的には縮小の傾向がみられます。
- ・全磁力観測では、新岳火口北側の観測点では増加、南側の観測点では減少しているように見え、新岳火口直下での熱消磁を示唆している可能性があります。

熱消磁：マグマや水蒸気によって岩盤が熱くなると岩盤の磁性が弱くなる現象。

この資料の作成に当たっては、気象庁のデータの他、京都大学のデータ等も使用しております。

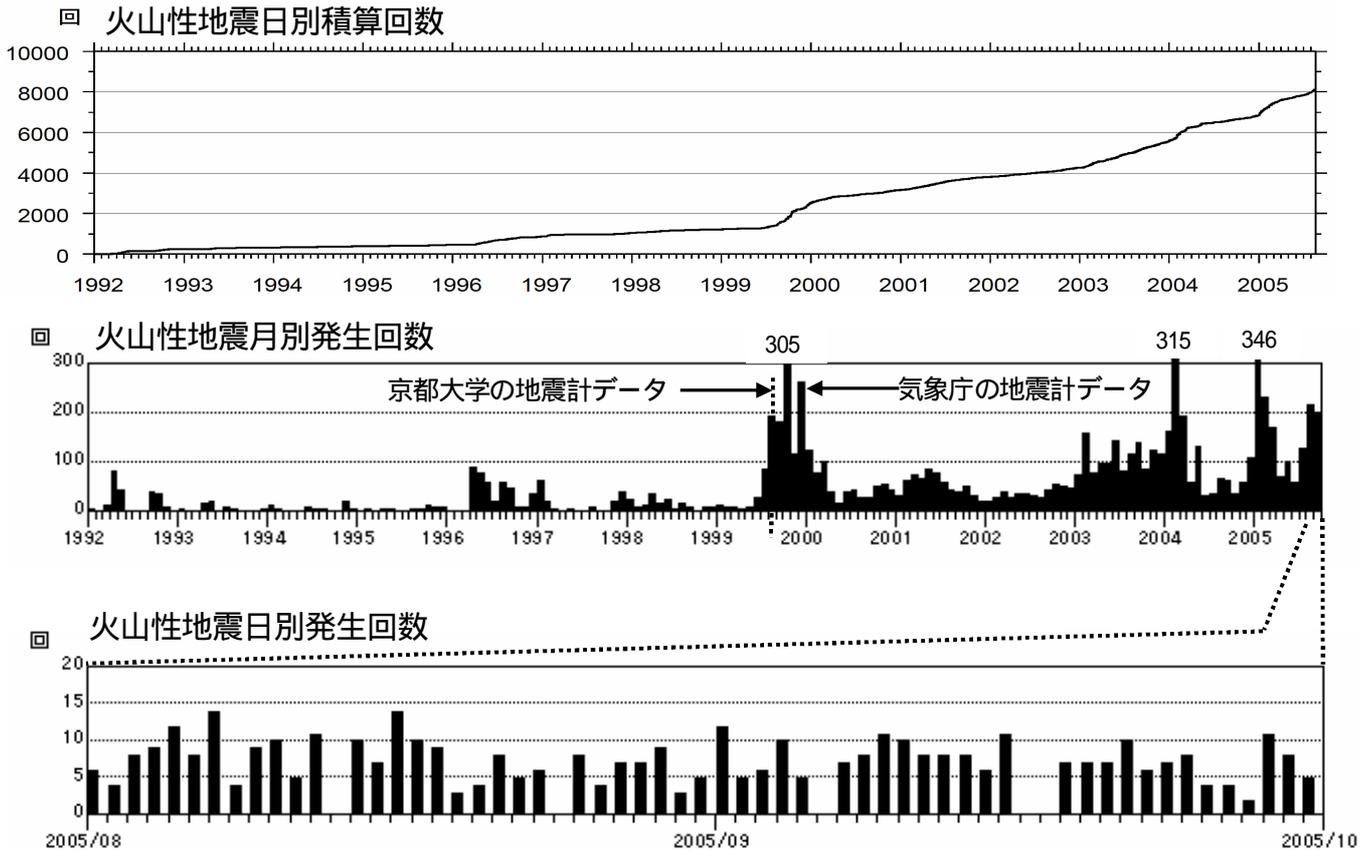


図1 火山性地震活動経過図(1992年1月1日～2005年9月30日)
 1999年9月12日までは京都大学のデータを利用
 7月9日～9月18日までは地震計3のデータで回数を計数しています。

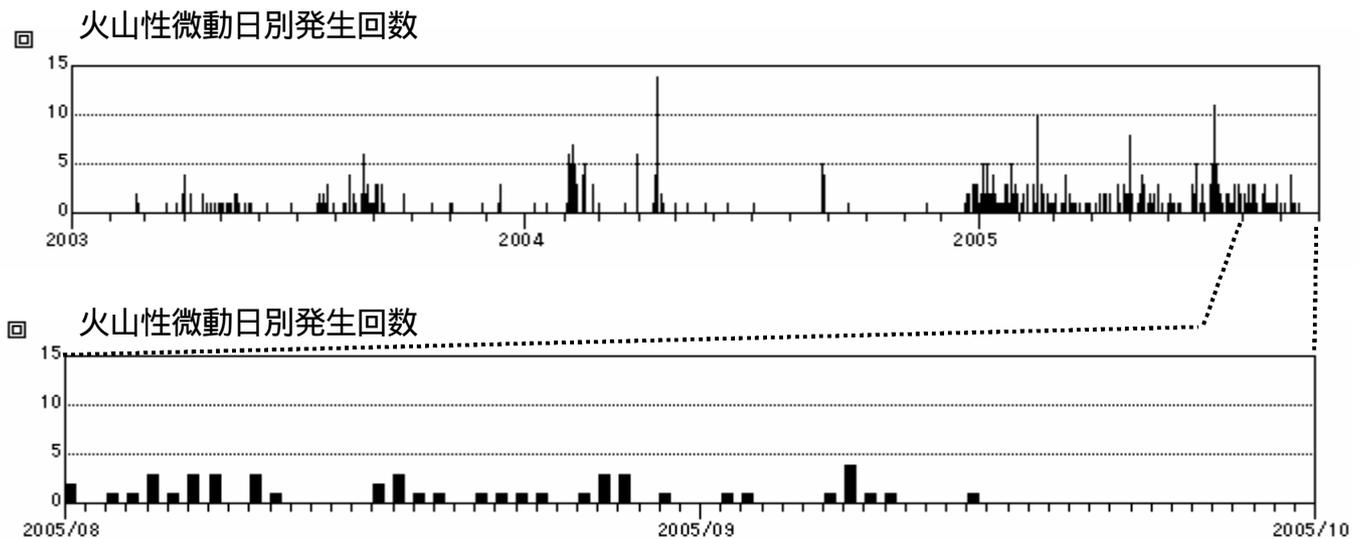


図2 火山性地震活動経過図(2003年1月1日～2005年9月30日)
 7月9日～9月18日までは地震計3のデータで回数を計数しています。

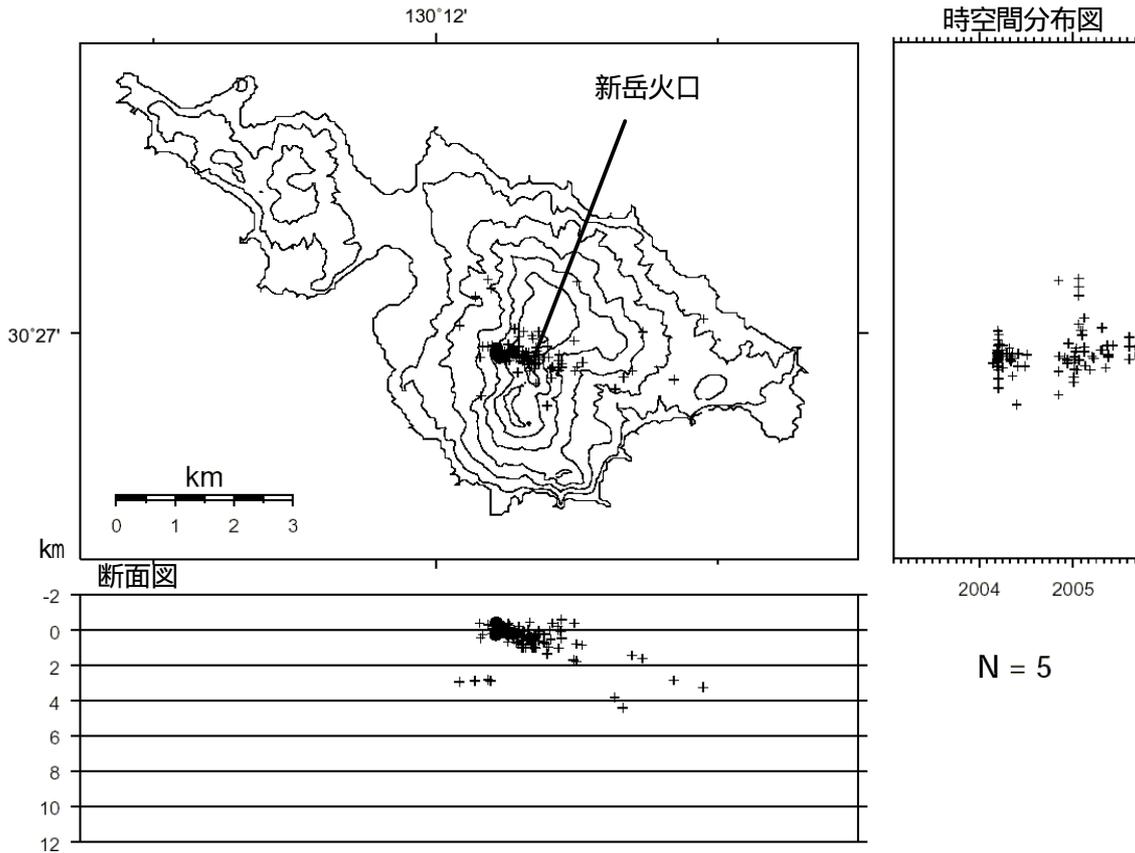


図3 火山性地震の震源分布図
 : 2005年9月1~30日
 + : 2003年2月1日~2005年8月31日

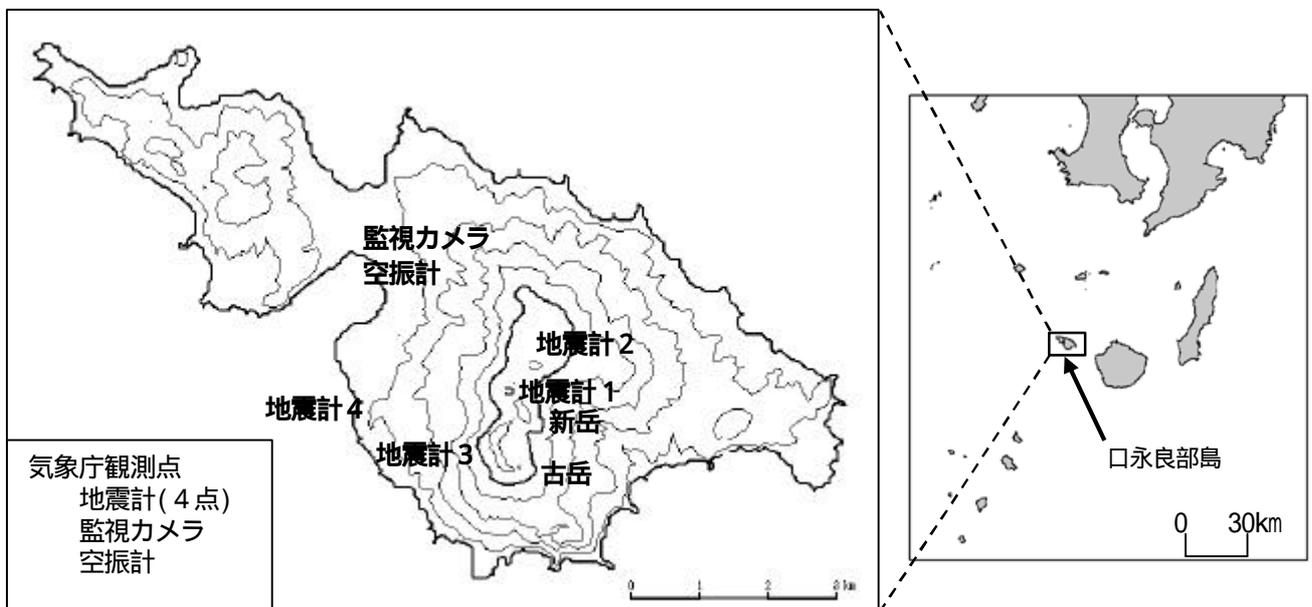


図4 観測点位置図

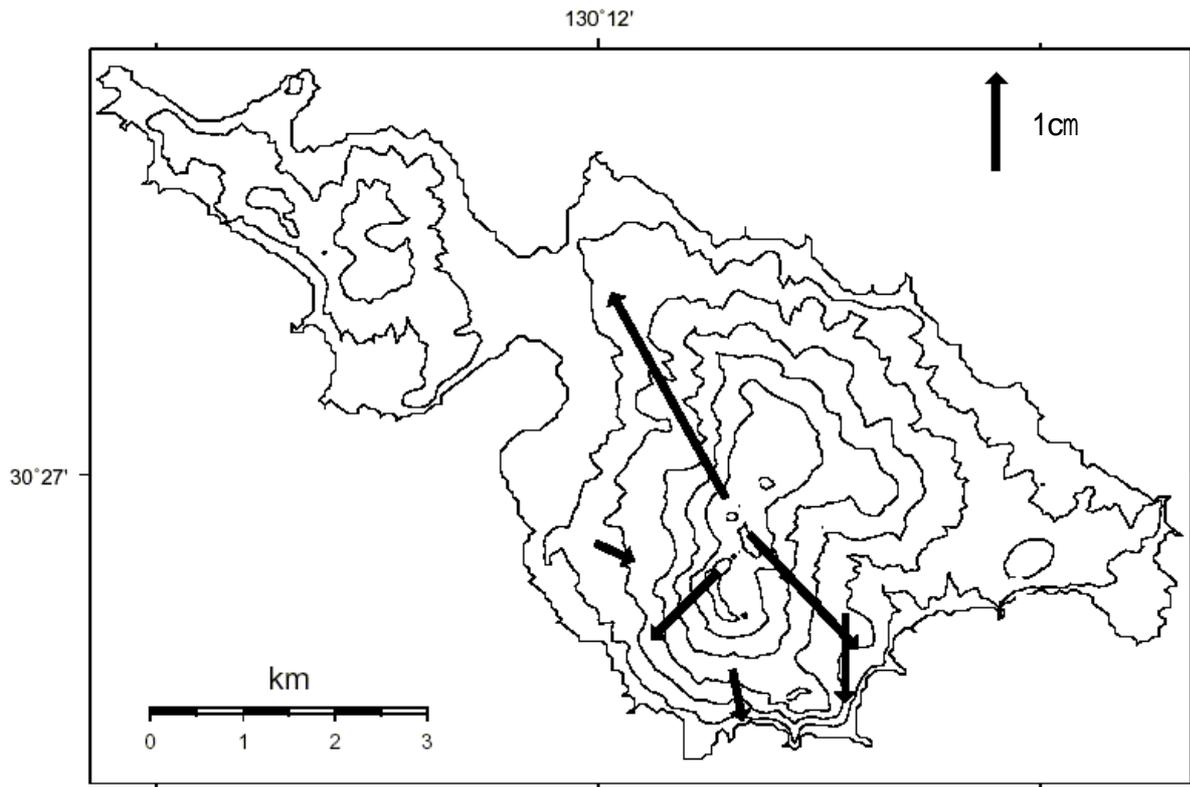


図5 GPS 繰返観測結果(2004 年 5 月 ~ 2005 年 9 月)
新岳火口付近の膨張傾向が続いています。

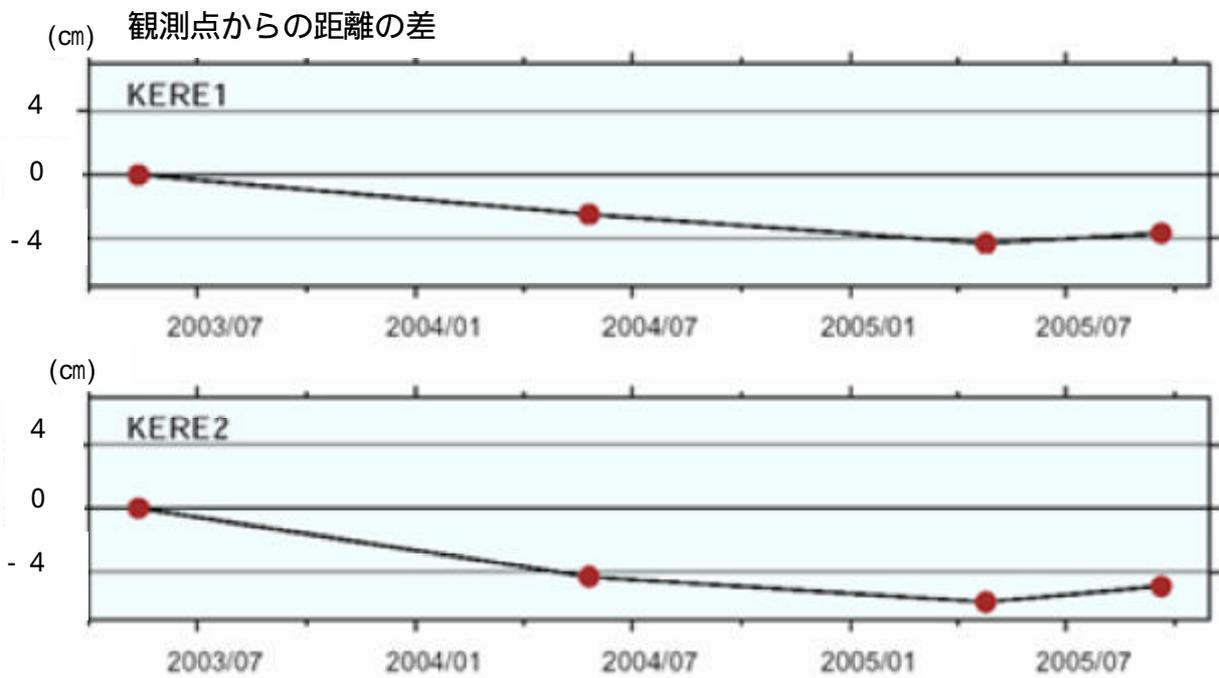


図6 光波測量の結果(2003 年 5 月 ~ 2005 年 9 月)

2003 年 5 月 ~ 2005 年 4 月までは出張所-観測点間の距離は縮小の傾向にありました。今回の観測ではわずかに伸びの傾向が出ていますが、長期的には縮小の傾向が続いています。

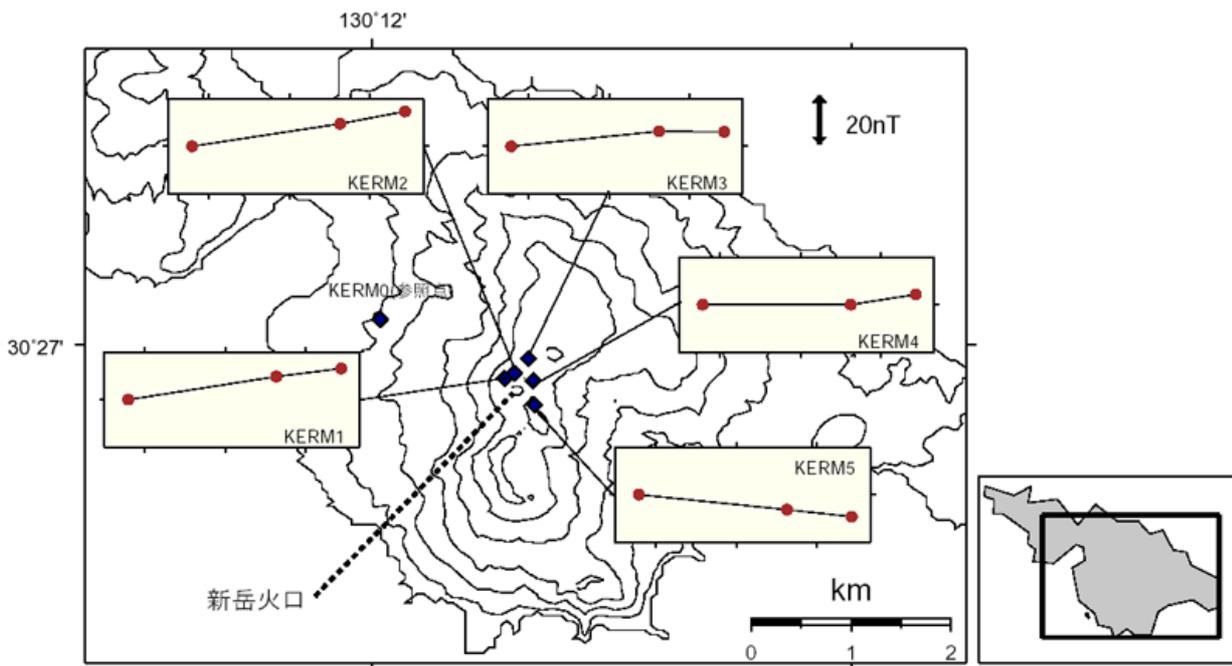
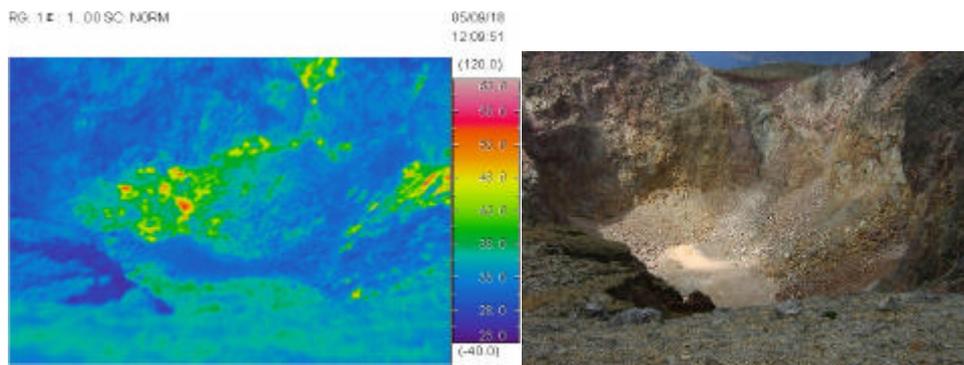
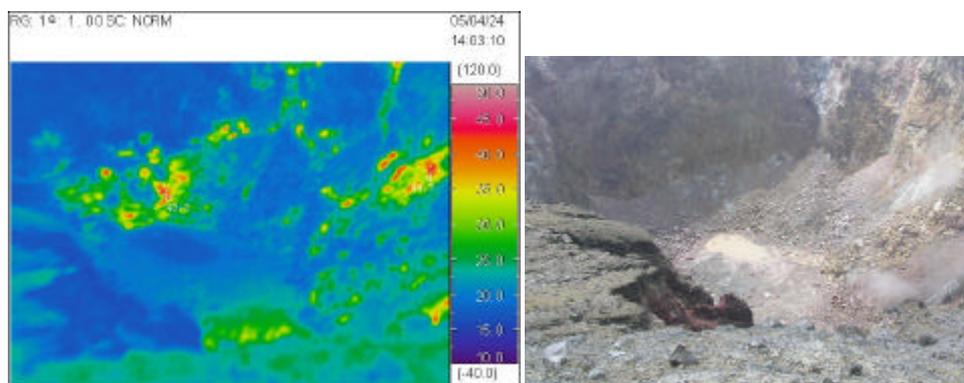


図7 全磁力繰返観測の結果(2003年5月~2005年9月)

新岳火口北側の観測点では増加、南側の観測点では減少しており、新岳火口直下での熱消磁を示唆している可能性があります。



2005年9月18日撮影



2005年4月28日撮影

図8 新岳火口底の写真と熱映像

前回の観測時(2005年4月28日)と比べ熱異常域の拡大等は認められませんでした。

口永良部島



凡例		
GPS	7点(うち参照点1点)	
全磁力	6点(うち参照点1点)	
光波測距用ミラー	4点	

ミラー 3、4 は今回設置
光波基準観測点は出張所

図 9 GPS・全磁力・光波測距観測点配置図